

平成31年度富士見市介護保険事業推進委員会 第1回会議（議事録要旨）

開催日時 平成31年4月25日（木）13時30分～15時00分
開催場所 富士見市役所 2階 第1・2会議室
出席委員 奥村敬一 日鼻靖 鳥羽美香 前田秀子 渡井善治 寺内克行 古内美和
久米原明彦 本多邦男 佐々木秀一 井山順子
欠席委員 武長正洋 渋谷善行
事務局職員 健康福祉部長 大森 高齢者福祉課長 宮嶋 副課長 長谷部・新山
係長 飯塚・神谷 担当 内田
健康増進センター所長 望月 係長 平
高齢者あんしん相談センターむさしの 古橋
高齢者あんしん相談センターふじみ苑 市川
高齢者あんしん相談センターえぶりわん鶴瀬 Nisi 田代
高齢者あんしん相談センターみずほ苑 橋本
高齢者あんしん相談センターひだまりの庭むさしの 土川

1 開会

- ・委員長より開会のあいさつ

2 議事

(1) 平成31年度各高齢者あんしん相談センター事業計画及び収支予算書について

- ・資料1-1に基づき、事務局より運営方針について説明。

引き続き、資料1-2に基づき、各高齢者あんしん相談センター管理者から事業計画及び収支予算書について説明。

<質 疑>

委員：パワーアップ体操を2つの圏域の高齢者あんしん相談センターでも取組んでいるようだが、共通のプログラムで取組んでいるのか。

事務局：パワーアップ体操は富士見市独自の介護予防体操であり、セラバンドを使う共通のプログラムで取組んでいる。高齢者あんしん相談センターのふじみ苑とみずほ苑で体操クラブがある。市内全域に52クラブがあり、公民館や集会所など地域の通える場所で活動している。

委員：平成30年度の課題の中で、大変な問題を抱えている事例や多様化・複雑化した相談に直面し困惑しているとの報告があったが、センターはどのように対応しているのか。また、市との連携はどのようにしているのか。

事務局：センターの業務は増加し、困難事例も増えていると感じている。困難事例については、市とセンターと関係機関等と連携し協力しながら、対応している。

管理者：センターには3職種を配置しているので、専門性を活かしながらチームとして支援に関わり、困難事例に対応している。今後も、困難事例は市と関係機関等の協力を得ながら、ケースごとに適切に対応していきたい。

- 委員：高齢者あんしん相談センターの人員については、本当に確保が難しい状況であるとよく聞かすが、市としてきちんと支援しているのか。
- 事務局：専門の資格を持った職員を雇用することは難しいことだと理解しており、今後も出来る限りの支援をしていきたい。
- 委員：高齢者あんしん相談センターの人員不足は、前年度から変わらず、職員が欠員しているセンターが多い。市からの財政的な支援が必要でないかと思う。また、市として研修費を増やし、センター職員には、スキルアップ・モチベーションアップ等の研修に出来るだけ参加してもらったらどうか。
- 事務局：各法人の施設長等に、センター業務の大変さを伝え、給与に反映するようお願いしているが、法人内の給与体系を勘案すると難しいとの回答を受けている。研修費は、委託料の中に含まれており、受講に費用がかかる研修であっても、センターごとに予算を計上してもらい、参加してもらっている。
- 管理者：国や県、様々な機関や団体が主催する研修に参加し、スキルアップを目指している。様々な研修により多くの職員が参加できるよう配慮している。
- 委員：当初予算がマイナスとなっているセンターがいくつかあるが、どうしてマイナスなのか。
- 事務局：センターは社会福祉法人に委託しており、法人全体での予算をみるとマイナスになっていないようだが、法人の中の一つのセンター拠点区分のみを抜粋すると、マイナスの予算になるようである。マイナスの要因は法人ごとに違い、収支のまとめ方も法人ごとの考え方が異なる。市としては、マイナスの表記がある予算書は想定していなかった。法人から提出された資金収支予算内訳表を、そのまま資料として提示しているため、ご理解いただきたい。
- 管理者：予算でマイナスになっていても、事業間の繰越で、決算の際に精算する。
- 委員長：法人と相談していただき、今後の資料は表記を統一してほしい。分かりやすく整理をしていただきたい。

(2) 指定介護予防支援業務委託の承認について

- ・資料2、2-2に沿って事務局から説明。

質疑なし

上記について承認。

(3) 介護保険事業推進委員会スケジュールについて

- ・事務局より資料3に沿って説明。

質疑なし

(4) その他

なし

3 閉会

- ・副委員長より閉会のあいさつ